

自立指導 の先進塾

小学校低学年を対象にした自立指導教室 教育意識の高い家庭を対象に 「アドバンスクラス」を設置

幼児・小学生向け学習教材開発の老舗である(株)エジソンクラブは、いま小学校低学年向けの自立学習指導を展開している。その詳細な内容などについて新村一臣社長に話をうかがった。

株式会社 エジソンクラブ 新村 一臣 社長



新たに 「アドバンスクラス」を開講

子どもたち自身が自ら学習する力を育成する自立指導塾は近年急速に増加しているが、小学校低学年を対象にしている塾や教室は珍しい。が、エジソンクラブはそれをスタートさせた。40年以上にわたって幼児・小学生向けの学習教材を開発・販売し、たくさんの方々に現場に立ち会ってきたそのノウハウを最大限に活かした

入学準備クラスだ。1月、2月には2回、保護者と子どもを対象に、体験学習会&説明会を開き、3月にも2



バスル学習をする子どもたち

子どもたちの様子も見てきました。ただ、その中で見てきた学習の現場では、「せっかく伸びる資質のある子を伸ばしていない」「ただノルマ的にプリント学習をさせている」「学習の楽しさが子どもに伝わっていない」という状況が多いことに問題意識をもっていました」と語った。

この10年間全国の学習塾の先生方に、いかに子どもたちの能力を引き出すのか、講習を開催して情報の提供を続け、少しずつではあるが、その効果が現れ、今では全国的な学力テストで毎回トップの成績をおさめる子どもが多くの教室から出るようになったことも伝えた。

教室用の学習プラン

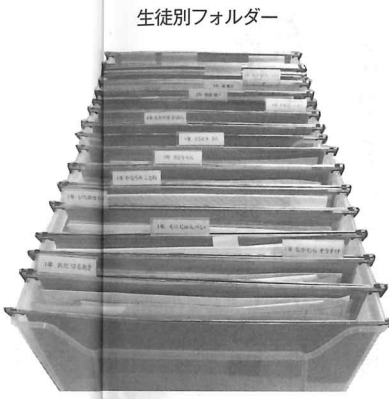
項目	内容	時間	備考
①	バスル学習	10分	
②	読書	10分	
③	算数	10分	
④	国語	10分	
⑤	英語	10分	
⑥	音楽	10分	
⑦	体育	10分	
⑧	自由時間	10分	
⑨	休憩	10分	
⑩	まとめ	10分	

目的別フォルダー

「このたび、その流れをさらに加速し、指導の充実をはかるために直接指導する教室を開講する運びとなりました。そのクラスで目指すのは、『学習の正しい習慣がつくよう導く』『小学校4年生1学期には小学6年生の基本的な内容が修了し、発展的な学習に進められるようにする』『学校での学習のお困りごとなどを個別に解決する』という

回予定している。「入学準備クラスをスタートさせたのですが、この4月からはアドバンスクラスに移行いたします。要するに、実質的に教室がスタートするということです」と新村社長は語る。

1月の体験学習会&説明会に参加した保護者と子どもは、主に国立小学校の受験をした親子をはじめ、その他の親子も参加したという。「最初の説明会では親御さんとお子さんそれぞれ17名の参加でした。私たちは国立小学校受験の対策講座をやっていますから、その受験が終わった方が5、6名、



生徒別フォルダー

ものです」。

一方、保護者が会場の後ろの方で説明を聞いている間、子どもたちには前方で、図形レベルチェック(約10分)、基本教材レベルチェック(約30分)、基本教材での学習(約10分)、国語学習(約10分)、家庭学習での説明が行われた。

家庭学習を 強力にサポートし、 細かくフォローアップ

このアドバンスクラスで最も力を入れているのは、「家庭学習のサポート」だ。

「自立型の学習では、基本的に家で学習しなければ身につきません。ですから、お子さんの家庭学習の管理の仕方にも保護者に伝授し、もちろん生徒にも授業の中で説明しています。小さいときから学習習慣と基礎学力を身につけたお子さんは、確実に学力が伸びていきます。教室での学習内容を記録する『学習進行カード』、家庭での学習を記録する『家庭学習記録表』を使って、親御さんはこちらのこ

その方々のご紹介で参加した方が4、5名、ネットなどで知って参加した方が6名くらいでした。そしてほぼ全員が説明会後に入会を決めたという。

学力トップクラスの生徒の 学習方法を導入

その体験学習&説明会では、「学力トップクラスの生徒さんが実践した学習方法で学習に取り組みてみませんか」という提案を新村代表自らが保護者に行なった。「100人の子どもには、100通りの学習方法がある」と言われるように、「学び」は時々によって内容もさることながら、その方法も変わっていく。また、この学習方法がベスト

教室での学習進捗表

と、最終的にはお子さん自身が自ら学習計画を立てて実行していけるようにしていきます」。

授業は1回90分で、月に2回行う。月に2回では少ないのではないかとと思われるかもしれないが、「昨年1年行っていた小学校受験クラスは月2回でした。それでもお茶の水女子大附属小や芸芸大附属小などの合格実績も出ていましたから、家庭学習をきちんとつくり上げれば、やっていけるだろう」と思い、月に2回にいたしました」と新村社長は語る。

家庭学習に対して細かくフォローアップすることがこれまでとは大きく異なるという。「今までは週に2回教室に来て、その中で完結させていた学習を、今度は月2回になりましたが、家庭学習の状況にまで踏み込んでいくことになりました」。

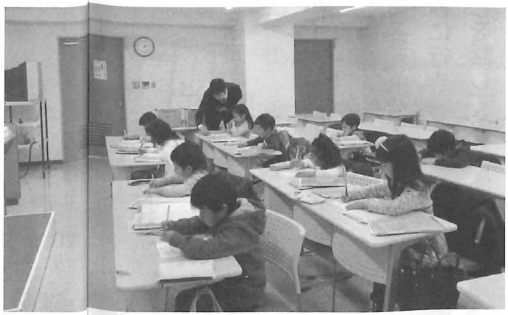
教室の先生たちは 「コンシェルジュ」の役割を

教室の先生たちの役割は、わかりやすく言うと「コンシェルジュ」だ。

家庭学習用の学習プラン

だという一つの方法があるわけでもない。学習方法は画一的ではない。その子の特性に合った最適な学習ができるというのだが、そうでないことも多々ある。

・潜在能力のある子に無駄な学習をさせてしまっている
・無理なプレッシャーをかけ才能の芽を摘んでしまっている
こんなことが普通にあるのだと述べたうえで、「私たちの学習教材をご利用いただいている教室も、個人の教室から大手の教室まで1500を超えています。そして実際に指導している現場に立



熱心に学ぶ子どもたち

まずは適切な教材を使うようにし、家庭の中で親子が学習について話し合う環境をつくってあげ、指示を出す。家庭の中で約束事をつくりながらそれを習慣化していく働きかけをする。「褒めるポイントも重要です。進行表を見て、『すごいね、きちんと毎日学習できているから、今度はもっとも毎日できるようにしようね』などと、お子さんを励ますポイントを見つけて、それが我々の仕事だと思っています」。

その先生たちの研修を行うのは、藤田和彦氏。小学校受験協会理事、国立小受験定期教室へバー対策講座の主任講師。塾に通わず東大現役合格し、プロの家庭教師として幼児から大学受験生まで幅広く指導している。

「生徒を飽きさせない仕組み」をつくるのが、目下の課題であるとも言つ、「時間を区切って様々な学習をするようにしていますが、途中でゲームを入れるなど、さらに飽きない工夫をしていくと思っています」。

今後はこのアドバンスクラスの拠点を東京都内に10カ所ほどつくっていくという。「まずは都内で広げ、ご希望があれば他の地域にも広げていきたいと考えています」と、笑顔で語る新村社長。アドバンスクラスに関心のある塾関係者も大歓迎だ。要望があれば、教室見学などにも応じてくれるという。

特集